地域活性学会第14回研究大会
於:関東学院大学(2022年9月11日)

# 地域活性化に向けたゴルフ場の在り方に関する研究
## ―ゴルフ場改革7つの提案―

北　徹朗(武蔵野美術大学)

# 世界のゴルフ場数（トップ20）

| Country | Courses | Holes | Facilities |
|---|---|---|---|
| United States | 16,752 | 248,787 | 14,640 |
| Japan | 3,169 | 45,684 | 2,227 |
| Canada | 2,633 | 36,591 | 2,265 |
| England | 2,270 | 31,620 | 1,936 |
| Australia | 1,616 | 23,505 | 1,532 |
| Germany | 1,050 | 14,100 | 736 |
| France | 804 | 10,971 | 643 |
| Korea, Republic Of | 798 | 9,183 | 440 |
| Sweden | 662 | 9,303 | 471 |
| Scotland | 614 | 8,421 | 568 |
| China | 599 | 8,850 | 385 |
| Spain | 497 | 7,071 | 413 |
| Ireland | 494 | 7,530 | 438 |
| South Africa | 489 | 6,291 | 470 |
| New Zealand | 418 | 5,814 | 401 |
| Argentina | 349 | 4,368 | 314 |
| Denmark | 346 | 4,461 | 193 |
| Netherlands | 330 | 3,924 | 220 |
| Italy | 321 | 4,131 | 267 |
| Thailand | 315 | 4,095 | 236 |

R&A　Golf Around The World 2019, p.4

# 日本のゴルフ場（約2100か所）・多い都道府県ベスト3

| | | |
|---|---|---|
| 1位 | 北海道 | 約220 |
| 2位 | 千葉県 | 約180 |
| 3位 | 兵庫県 | 約150 |

# 日本のゴルフ人口

| | | |
|---|---|---|
| ピーク時 | 1992年 | 約1480万人 |
| | 2019年 | 約 580万人 |
| 現　状 | 2020年 | 約 520万人 |

出典：レジャー白書

様々な提言や取組が功を奏していない
（ゴルフ人口減少が止まらない）

# ＜日本のゴルフ場＞

国土面積の約０．７％

森林面積の約１．０％

関東１都６県に６００以上のゴルフ場が集中
森林面積に占める割合も約３．７％

２０３５年までに、全国で約１０００、首都圏で
約１５０のゴルフ場の経営が立ち行かなくなる

＜齋藤修（２０１２）余剰ゴルフ場、一季出版＞

# 政府や産業界の取り組み（1）

2003年 「ゴルフ市場活性化行動計画検討会」を組織
（経済産業省委託調査）

⇩

『ゴルフ市場活性化行動計画検討委員会報告書』を発表

## 報告書におけるゴルフ人口回復・市場活性化の提言

ゴルフ人口が減少し高齢化する中、ミドル層（30代・40代）や女性層、ジュニア層などのマーケットを開拓し、ゴルフ市場へ取り込んで行くための提言が示された

# 政府や産業界の取り組み（2）

2003年 「ゴルフ市場活性化行動計画検討会」を組織
（経済産業省委託調査）

⇩

『ゴルフ市場活性化行動計画検討委員会報告書』を発表

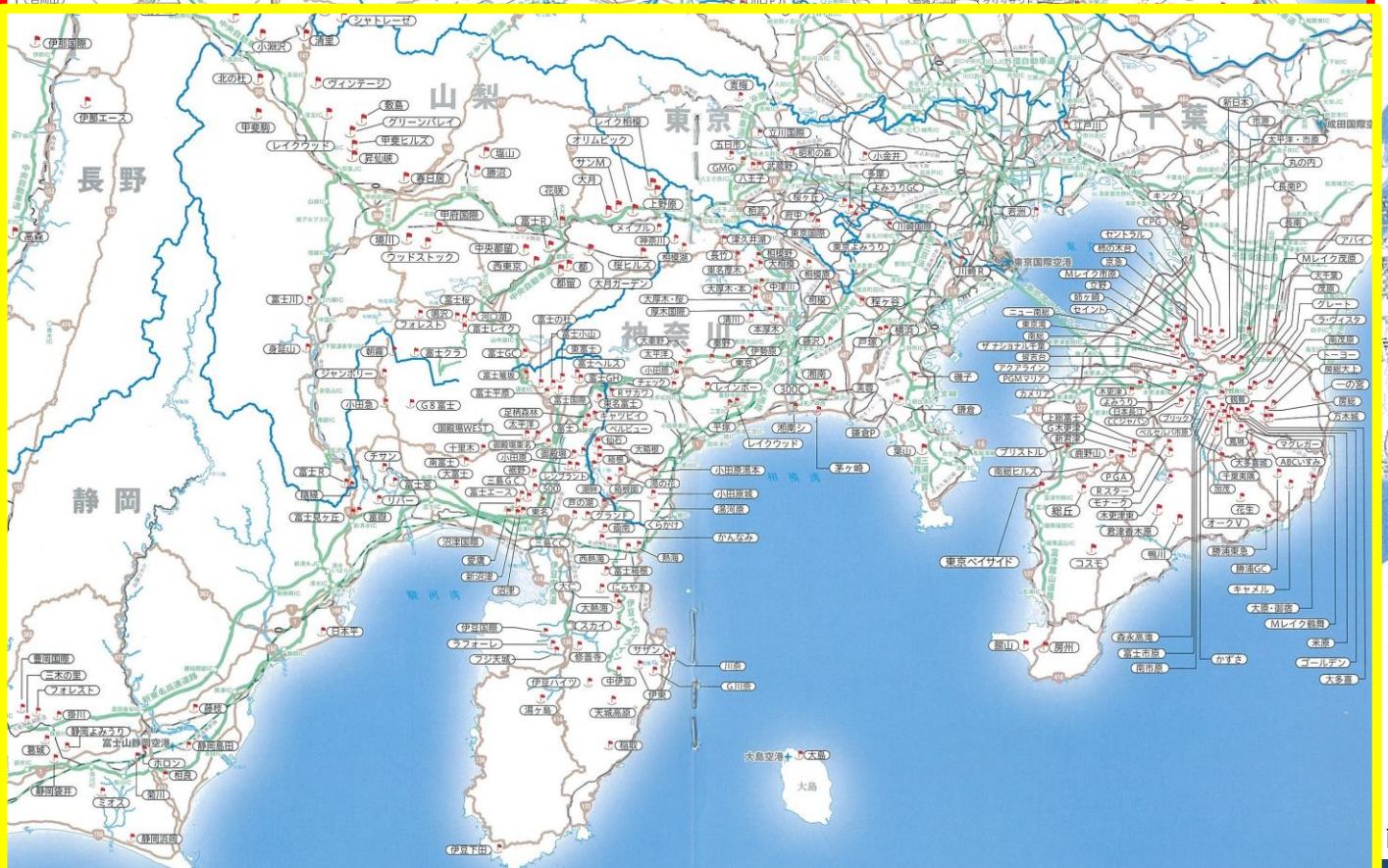
⇩

**2004年 「ゴルフ市場活性化委員会」（略称：GMAC）の設立**

## GMAC参加団体

日本ゴルフ協会、日本ゴルフ場経営者協会、日本パブリックゴルフ協会、日本ゴルフ用品協会、全日本ゴルフ練習場連盟、日本ゴルフジャーナリスト協会、経済産業省、有識者委員など

# ゴルフ場の分布地図



画像出典元：週刊ゴルフダイジェスト,2022, No.18

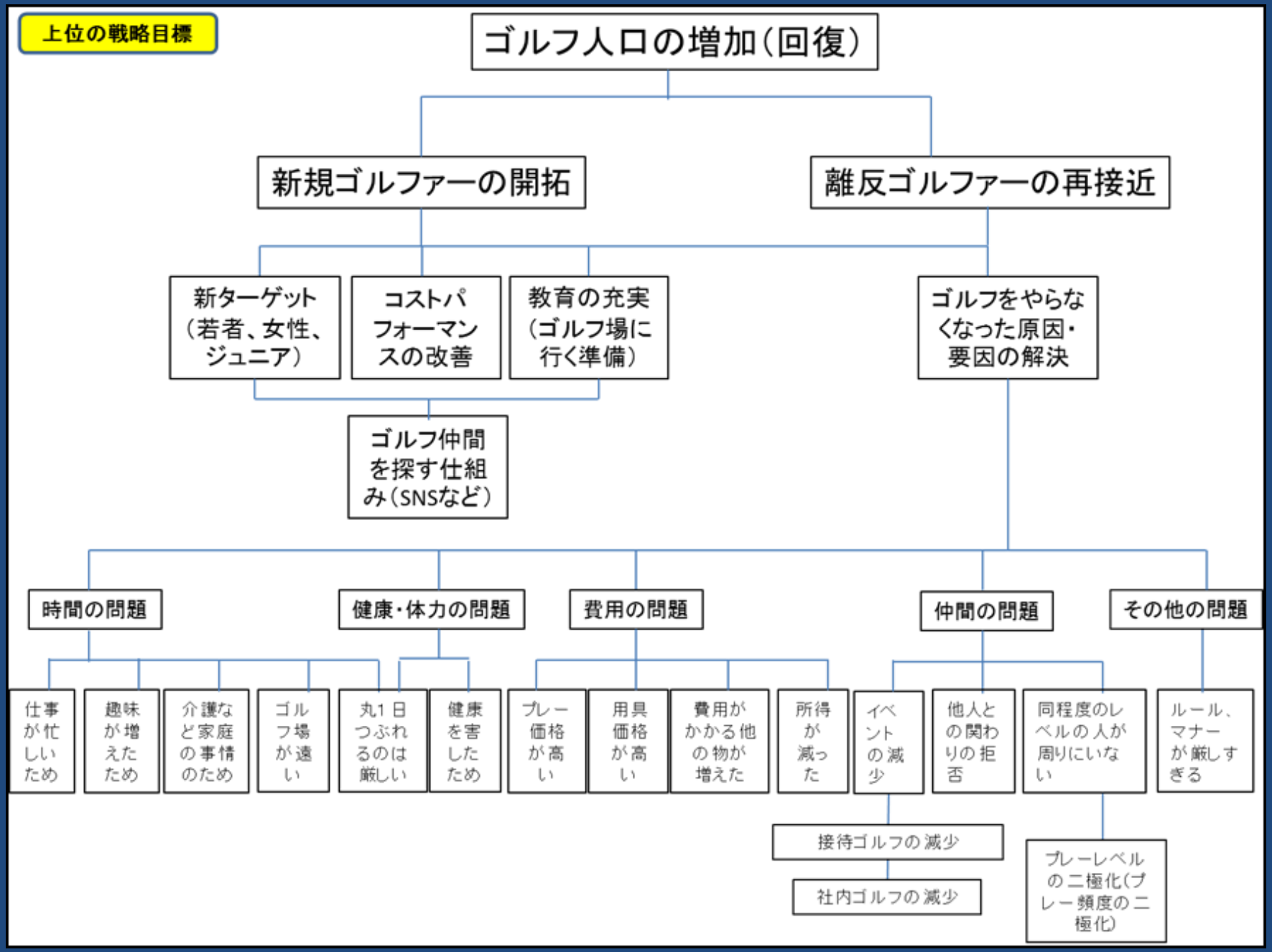
# 倒産したゴルフ場

岡山県

福島県

三重県

# ゴルフ人口減少要因のロジックモデル図（北、2014）



# 発表者の問題意識（1）

**人口増加策や市場活性化策の論点が本質的でない**

・「ゴルフで社会性を身につけよう」
・「ゴルフをすれば認知症に効く」
・「スター選手の育成こそが人口増加に繋がる」 ・・・・等々

一時的には賑やかされても「市場活性化（プレー人口増加）」という目標には遠く及ばず減少は止まらなかった

# 発表者の問題意識（1）

## 人口増加策や市場活性化策の論点が本質的でない

・「ゴルフで社会性を身につけよう」
・「ゴルフをすれば認知症に効く」
・「スター選手の育成こそが人口増加に繋がる」 ・・・・等々

一時的には賑やかされても「市場活性化（プレー人口増加）」という目標には遠く及ばず減少は止まらなかった

【手段としてのゴルフ論】や【何かの目的の下請け的発想のゴルフ論】ではなく、ゴルフそのものが「楽しい！」、「またやりたい！」と思えるような環境整備（**画一的なプレースタイルの改善**）をまず考えるべき

# スキー場は基本的に何で遊んでもOK

https://www.fujiten.net/mobile/article/family_article03.shtml

https://www.pedal-j.com/tag/%E3%82%B9%E3%83%8E%E3%83%BC%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AF

https://fujiwaraski.com/soririnpic/

https://www.asoview.com/item/activity/pln3000028335/

https://skiski.jp/words/shortski.html

https://19451030.at.webry.info/200803/article_5.html

https://camphack.nap-camp.com/2494

https://livedoor.blogimg.jp/charinkr/imgs/b/9/b97c0314.jpg

# 他方、ゴルフ場での遊び方は・・・・・

１つだけしかない

# 発表者の問題意識（2）

**ゴルフ市場活性化策に業界横断的な共通項は無い**

・女性やジュニアといった【ターゲット論】
・社会人基礎力や認知症に効くといった【副次的価値論】

プレー行動を決定するのは消費者個人であり、個人の価値観にまで踏み込む提言は的外れ

↓

ゴルフ場業界に絞って考えても、会員制度形態やゴルフ場のグレード、立地、歴史的背景など様々

日本における総体的なゴルフ離れの要因（ロジックモデル）から導き出した、**【ゴルフ場改革　7つの提案】**を提唱（北，2021）

# エビデンスベースの
# 「ゴルフ場改革 7つの提案」

# 【提案①】
# 1ホール単位での料金設定

●例えば「1ホール800円」など、1ホールごとの料金設定が可能になれば、その日の気分や体調、時間の有無などに応じてプレースタイルをカスタマイズすることが容易になる。

●費用負担も劇的に減免可能になるため、ゴルフへの敷居が低くなり取り組みやすくなる。

# 【提案②】
# コースの時間貸し料金設定

●練習場には「ボール数による販売」と「打席使用時間による販売」があるがゴルフ場にはそれらの発想がない。

●時間が来たらプレー終了してもらう仕組みがあれば、「スロープレー」も関係なくなる。

# 【提案③】

# １ホールの時間貸しで、同じホールを繰り返し回るプレースタイル

## 【ボウリングスタイル】

●ボウリングのように同じコースを繰り返し回るプレースタイル。

●特に初心者にはこれでも十分楽しめる。

●名物ホールや長いホールには料金設定に差を付けてはどうか。

# 【提案④】
# 用具（クラブ）ルール規制の緩和
## 【初心者向クラブなど、ルールでは認められない用具も使用可とする等】

●例えば、スキー場ではアルペンスキーだけでなく、スノースクーター、ソリ、スノーボード、テレマークスキー、ショートスキーなどの多様な用具が使用可能。

●リフト券にもシーズン券、1日券、半日券、回数券、1回券などがあり、技術・興味・意欲の高低や濃淡によってその日の遊び方を選択できるが、ゴルフ場の場合は選択の自由性が極めて低い。

●初心者クラブの有用性も高い（北ら、2019）。

# 【提案⑤】
# スマートゴルフ場化の推進
【Wi-Fiをコース内に多数配置し、自動チェックイン・チェックアウトを可能にする精算の完全オンライン化】

●スマートゴルフ場化が実現すれば、好きなタイミングでプレーをやめたり、始めたりすることも容易になる。

●プレースタイルの多様化実現に向けての期待が大きい。

# 【提案⑥】
# ドレスコード自由化
## 【ドレスコードフリー】

- 日本の場合、約9割がメンバーコースである
- 「クラブライフ」の建前からか、画一的なドレスコードが敷かれていることが多い。
- クラブの歴史、立地や特徴など、各ゴルフ場が自らを見つめ直し、施設のグレードの高さに応じてドレスコードの有無を決めるなど、画一的スタイルをそろそろ見直してもよいのではないか。
- 病気などで適応できない人もいる。

# 【提案⑦】
# ゴルフ以外のゴルフ場利用
## 【入場料設定による公園的利用（ゴルフエリアとパークエリアの分離等）】

●「フットゴルフ」など既に一部には人気の高い遊び方が定着している。

●入場料設定による公園的利用（ゴルフエリアとパークエリアの分離等）でゴルフ場が身近で開かれ場所になるのではないか。

# 「7つの提案」に対する支配人67名に対する調査

- 調査対象：1都8県の支配人67名
- 調査期間：2020年8月31日～10月30日
- 回答者のゴルフ場のタイプ：
  - ＊メンバーコース（24コース）
  - ＊メンバーコース／紹介無のビジター利用可（28コース）
  - ＊パブリックコース（14コース）
  - ＊無回答（1コース）
- 回答方法：【5件法によるスコア化】
  - ＊大変有用
  - ＊まあ有用
  - ＊どちらでもない
  - ＊あまり有用でない
  - ＊全く有用でない

# 「7つの提案」アンケート調査：お願い文（抜粋）

＜〇〇ゴルフ場 支配人様＞

ゴルフ人口は1990年代前半をピークに減少が続いています。過去、約20年を振り返ると、様々な施策（女性やジュニアの参加促進、若者への訴求）が試みられてきましたが、いずれも期待したほど成果をあげていません。2023年頃には、現在のゴルフ人口を支える厚い層の年代が健康寿命に到達しようとしています。

（中略）

経費や収支バランスは別として「ゴルフ人口拡大のための有用性の高さ」という観点のみでお考え頂きご回答下さい。

# 「7つの提案」に対する支配人67名の賛否

『大変有用』と『まあ有用』への回答率合算後のランキング

1位：スマートゴルフ場化（65.7%）
2位：ゴルフ以外のゴルフ場利用（49.2%）
3位：クラブ規制の緩和（34.5%）
4位：ドレスコードの自由化（37.4%）
5位：ホールごとの料金設定（20.9%）
6位：コースの時間貸し（17.9%）
7位：ボウリングスタイル（11.9%）

1都3県以外の「ビジター利用可のメンバーコース」、「パブリック」が大半

# 第1位：スマートゴルフ場化の推進

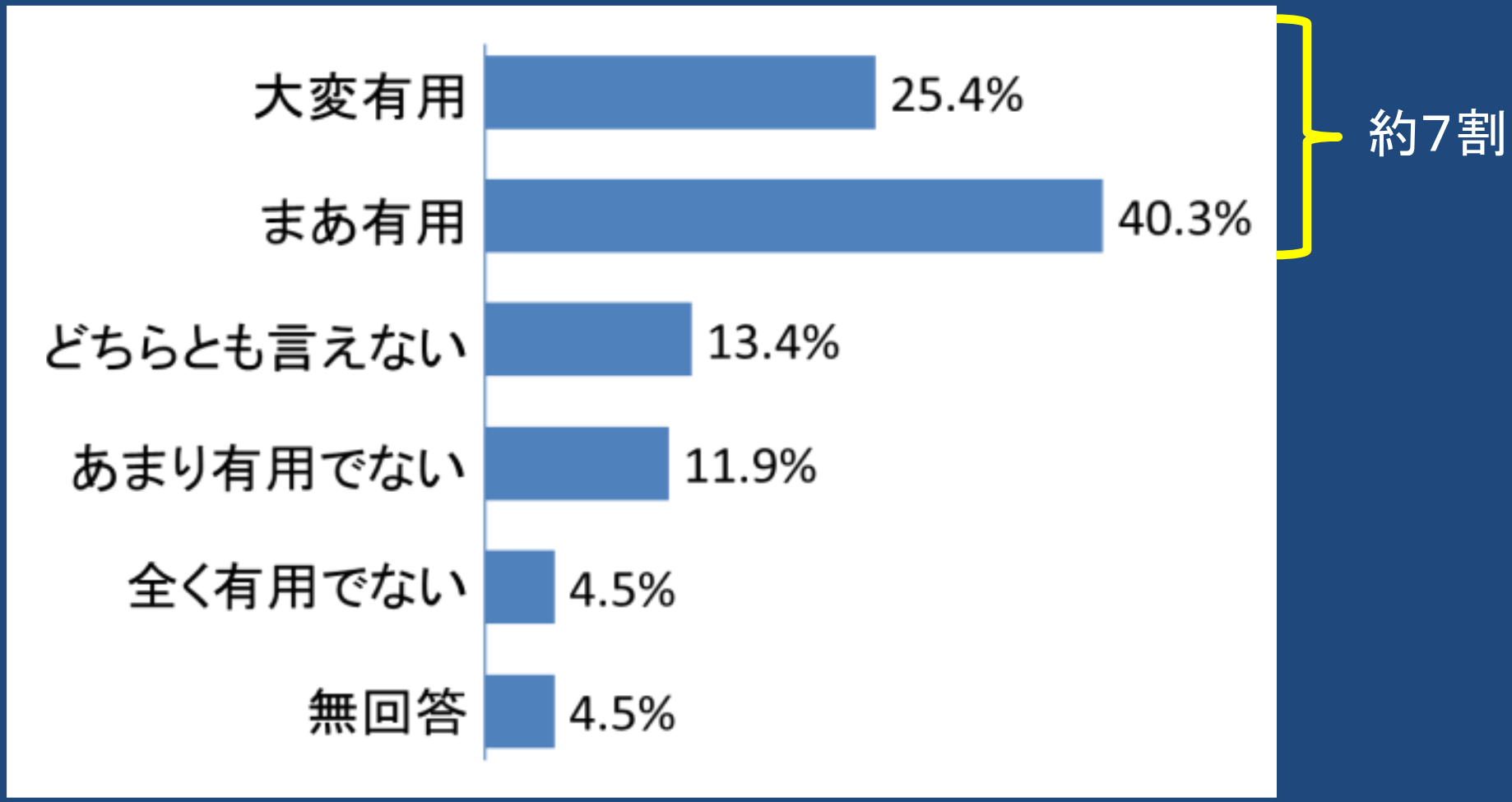



図1.「スマートゴルフ場化推進」の有用性

# 第2位：ゴルフ以外のゴルフ場利用

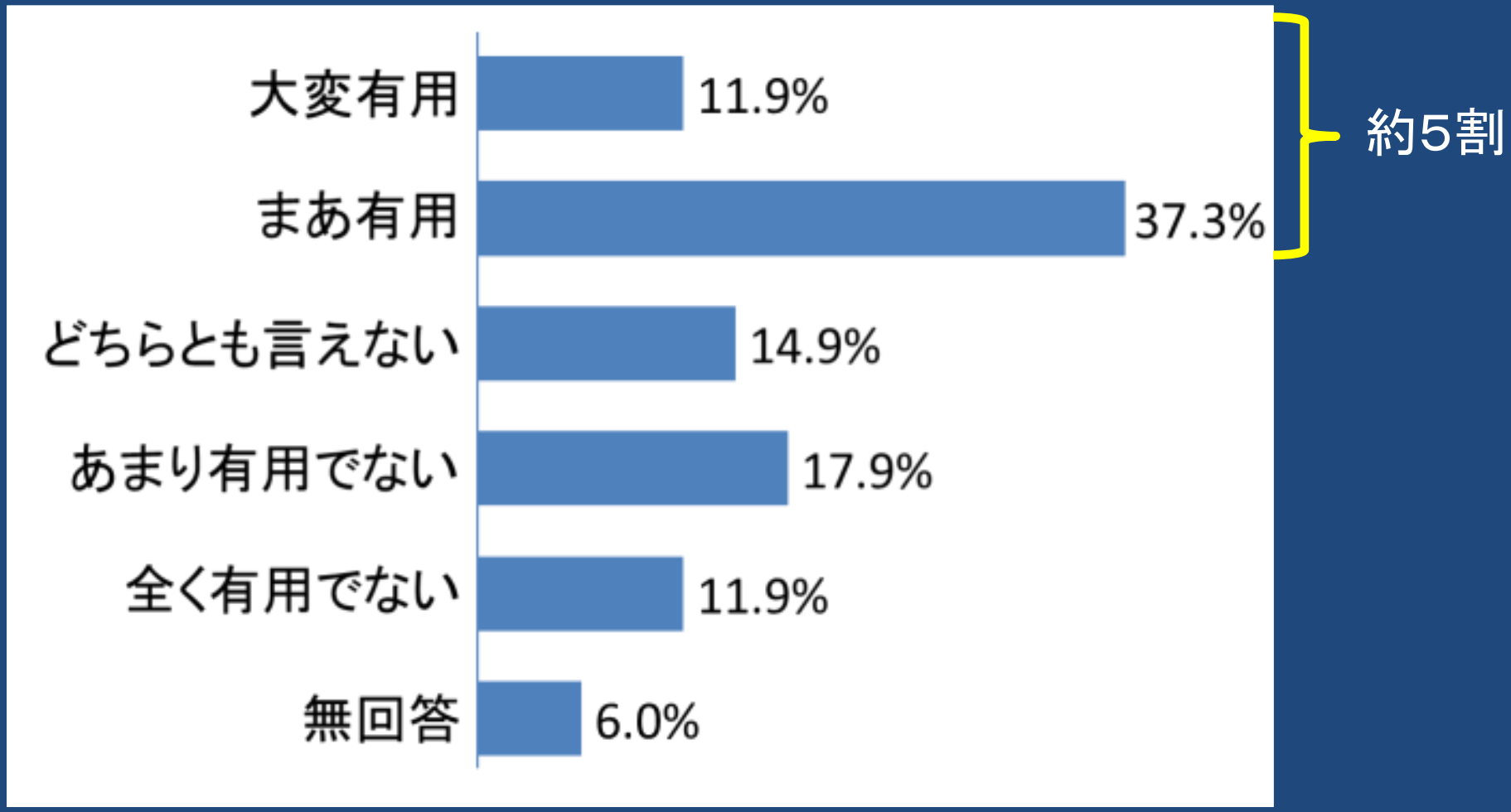



図2.「ゴルフプレー以外のゴルフ場利用促進」の有用性

# 第3位：クラブ規制の緩和

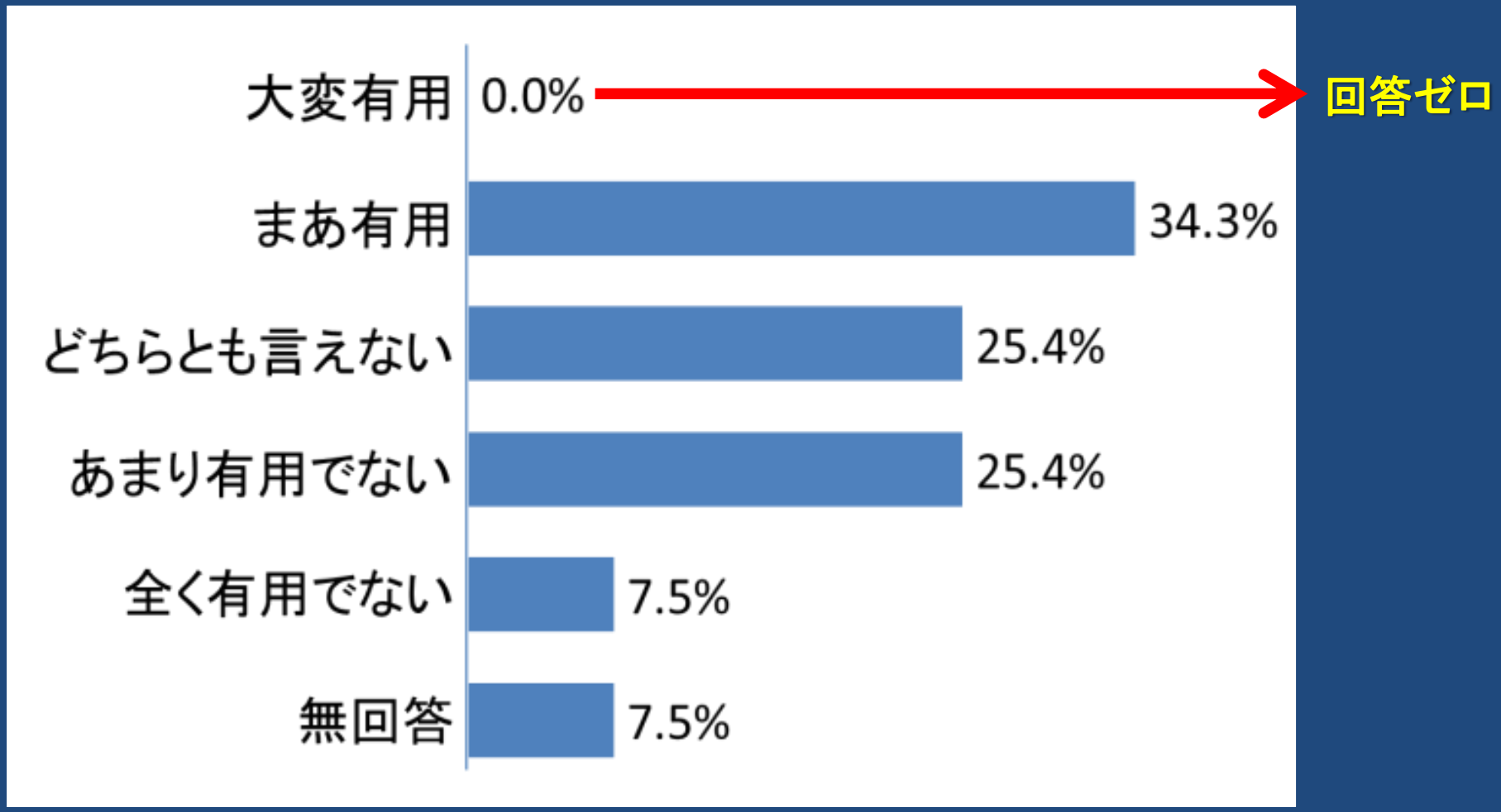



図3.「用具（クラブ）ルール規制の緩和」の有用性

# 第4位:ドレスコードの自由化

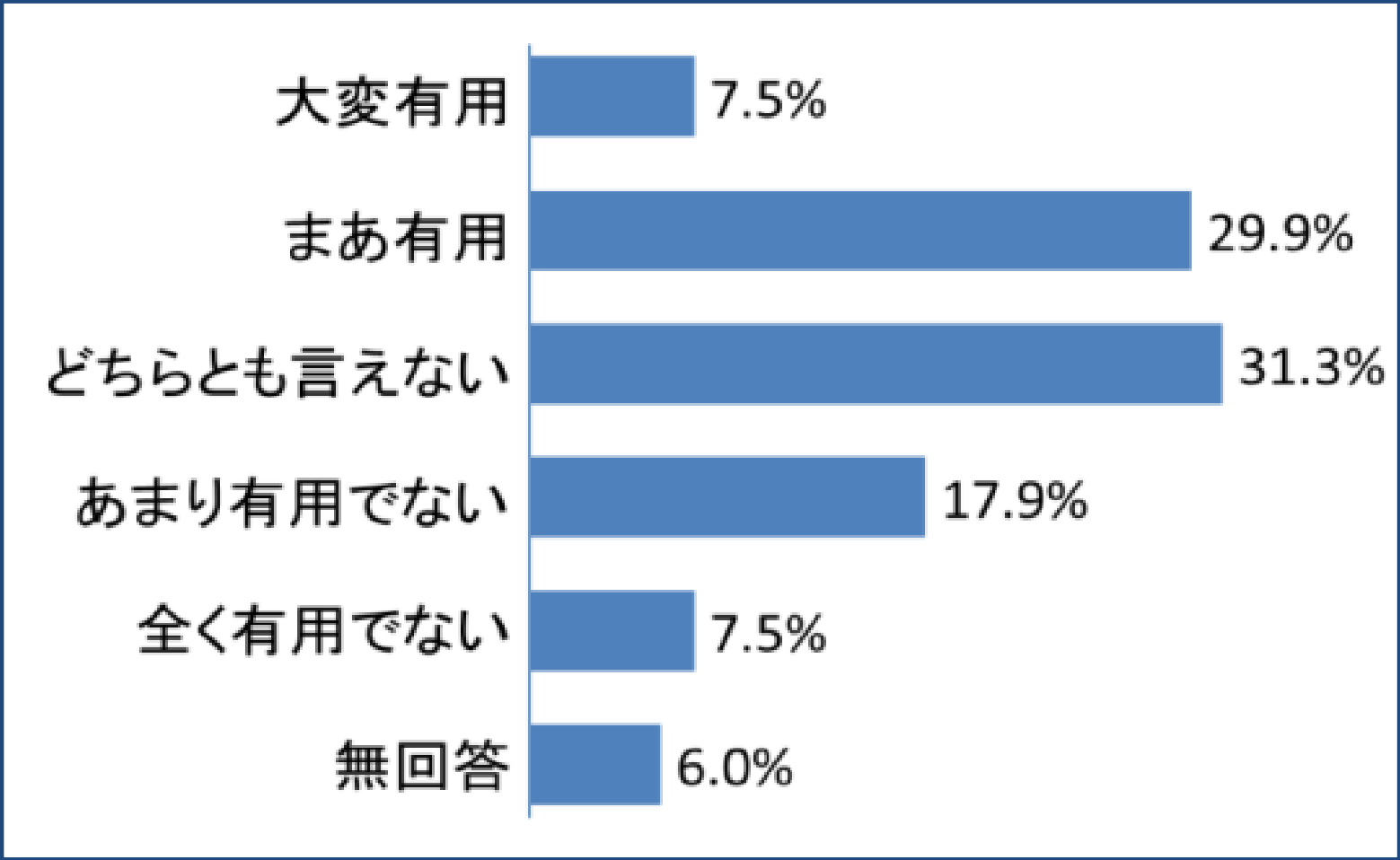



図4.「ドレスコードの自由化」の有用性

# 第5位：1ホール単位の料金設定

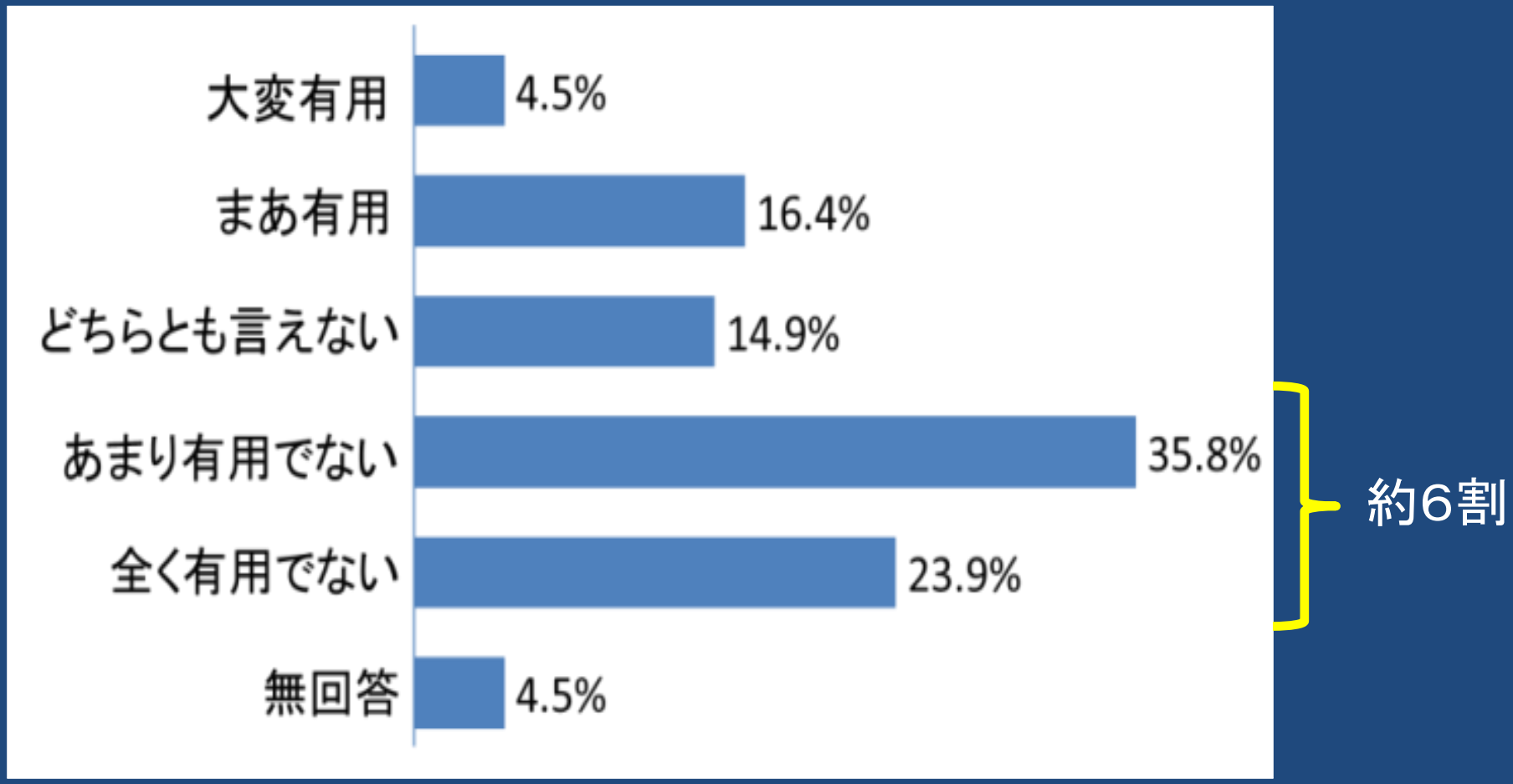



図5.「1ホール単位の料金設定」の有用性

# 第6位：コースの時間貸し

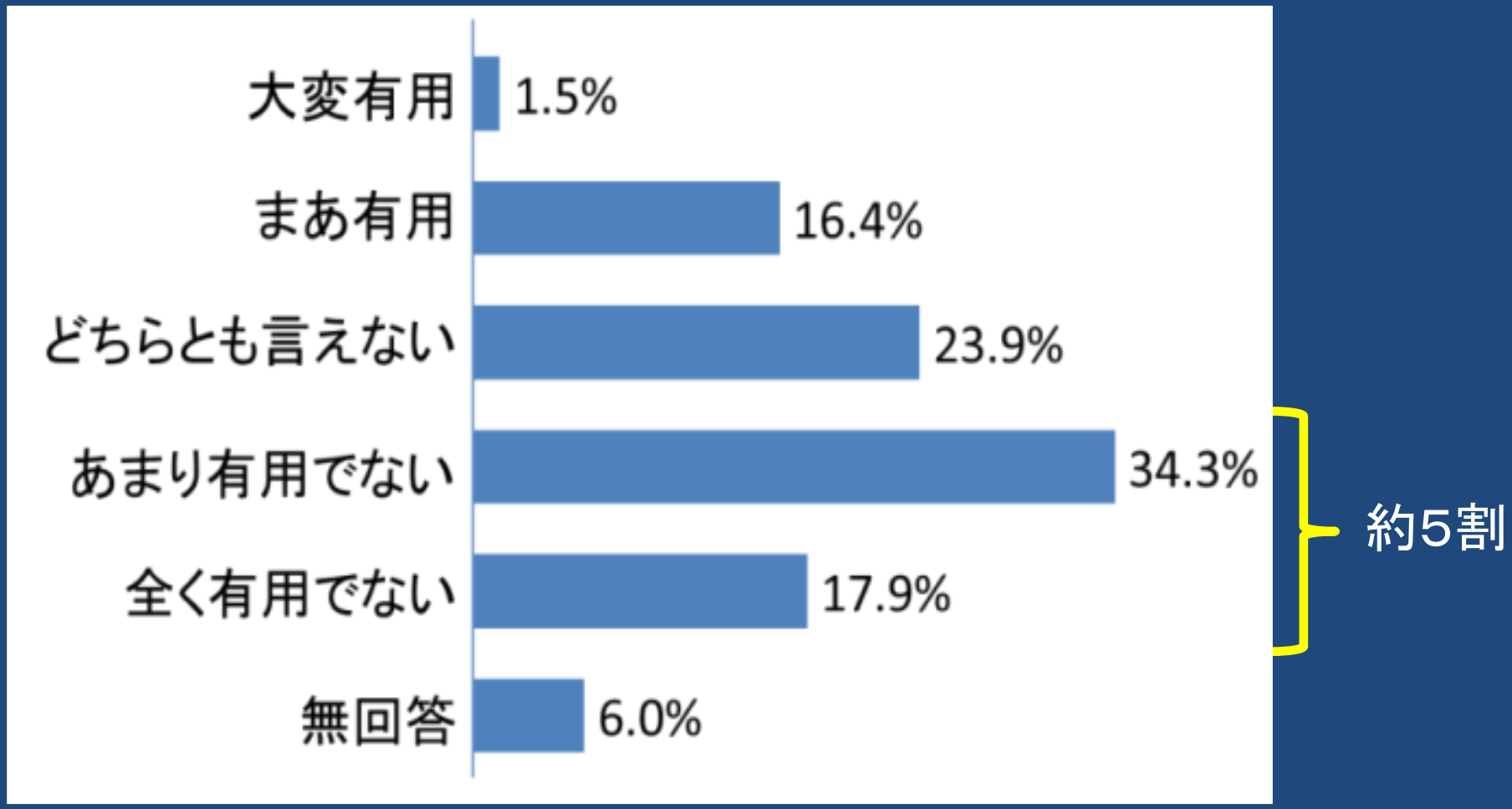



図6.「コースの時間貸し」の有用性

# 第7位：ボウリングスタイルでのプレー

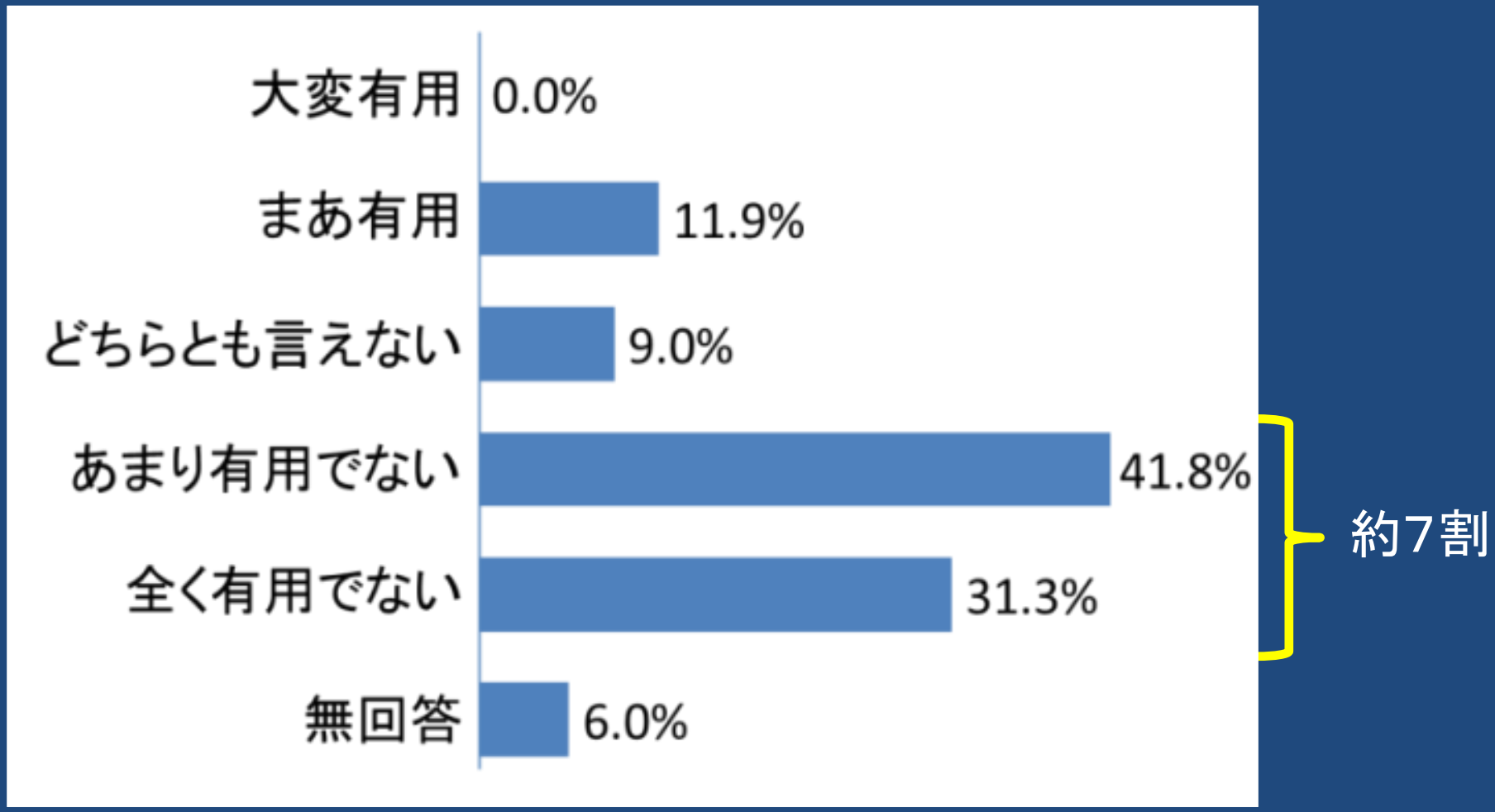



図7.「ボウリングスタイル（1ホールの時間貸し）」の有用性

## 支配人に共通して低評価だった「コースの時間貸し」と「ボウリングスタイル」の重要性（1）

●2つの方法を組み合わせて運用すれば、特に初心者向けには有用性が高い。

●練習場には「ボール数による販売」と「打席使用時間による販売」があるが、ゴルフ場にはそれらの発想はない。

## 支配人に共通して低評価だった「コースの時間貸し」と「ボウリングスタイル」の重要性（2）

●スキーを初めて経験するとき、同じ緩斜面を何度も練習することが多い。

●上手くなれば、色んなリフトに乗って様々なコースや景色を楽しみたい欲求が生まれるが、初心者のうちは同じ斜面で行う方が合理的であるし安心感もある。

●同じ場所で繰り返し滑ることで学習もするため、楽しくもなって行く。

## 支配人に共通して低評価だった「コースの時間貸し」と「ボウリングスタイル」の重要性（3）

●「Gちゃれ」（ゴルフ授業履修者の3ホール体験）を通じて、これまでに約2000名の大学生がコースデビューを果たしてきた。

●彼らは同じ数コースを繰り返しまわることでも充分に楽しみを覚え「また来たい！」と喜んで帰って行く。

「大変有用」と「まあ有用」の回答率を合算し、概ね50%以上、30%以上、20%以下を目安に賛同率が高い順に「今すぐできそう」「将来広がる可能性」「現状ではごく少数しかできなそう」に類型化した。

＜今すぐできそうな現実的な取り組み＞

1位：スマートゴルフ場化（65.7%）

2位：ゴルフ以外のゴルフ場利用（49.2%）

＜近い将来広がる可能性のある取り組み＞

3位：クラブ規制の緩和（34.5%）

4位：ドレスコードの自由化（37.4%）

＜現状ではごく少数でしかできそうにない取り組み＞

5位：ホールごとの料金設定（20.9%）

6位：コースの時間貸し（17.9%）

7位：ボウリングスタイル（11.9%）

# むすびにかえて

●「スマートゴルフ場化」の推進については、評価が特に高く、いずれ導入が進んで行くのではないか。

●ゴルフ場での遊び方にバリエーションを増やしていく努力がされない限り、ゴルフ場に集う人が増えることはまず考え難い。

●「7つの提案」については、状況や対象あるいは歴史や地域等によって、フィットするゴルフ場もあれば取り入れるのが難しいゴルフ場もあるだろう。

●各ゴルフ場の状況に応じて、現状維持、マイナーチェンジ、大規模な変革など、運営や在り方の方針を考えて行く努力が必要であろう。

# 画一的な「ゴルフ」

・形骸化した会員制
・均一的なドレスコード
・9ホール区切りのプレースタイル
・同一のルール・マナー、等々

である限り、2000を超える日本のゴルフ場が再び賑わうことは考え難い。地域や産業、大学との連携による活性化が期待される。

# 終

ご清聴ありがとうございました

武蔵野美術大学美術館

武蔵野美術大学図書館